

事例

「アフリカの角」地域干ばつに対する協力

地域社会の対応能力の強化を支援

2011年、「アフリカの角」地域(ソマリア、ケニア、エチオピアなど)において、過去60年で最悪とされる大規模な干ばつが発生しました。国連によると、緊急人道支援を必要とする住民は地域全体で1,300万人以上に及び、今も多くの人々が深刻な影響を受けています。

JICAは緊急援助に加え、ケニア、エチオピアで、地域社会の対応能力強化を支援しています。

「アフリカの角」地域では、気候変動の影響もあり、過去30年以上にわたって「干ばつ危機」と「人道支援」が繰り返されてきました。今回の干ばつでも、緊急支援物資の供与を通じた人道支援が一定の成果を出しましたが、短期的な人道支援だけでは今後も頻発が予想される干ばつ問題に根本から対処ができないことが改めて認識されました。

JICAは、中長期的な開発の枠組みのもと、地域住民の対応能力(レジリエンス)を強化することが重要と考え、ケニア、エチオピアでその取り組みを本格化しています。

また、今回の干ばつで25万人が飢餓に瀕するなど最も深刻な被害を受けたソマリアに対して、JICAは20年ぶりに支援を再開しました。

ケニア

ケニアでは、北部乾燥地の牧畜民向けの中長期的な取り組みとして、牧草や水などの自然資源の持続可能な管理や生計多様化の実現を目指すプロジェクトを実

施しています^{※1}。牧畜民の対応能力の向上を通じ、「人道支援の受け手」から「経済の担い手」へ転換することを目標としています。また、中部、南部を中心とした半乾燥地では、安定的な農業用水の確保を目指し、小規模灌漑の普及を目的とするプロジェクト^{※2}を実施する予定です。

さらに、ソマリア難民を受け入れているダダブ難民キャンプのホストコミュニティに対して、これまでの技術協力プロジェクト^{※3}の中に、新たに給水車や給水タンクの供与を組み入れるなど、活動内容の大幅な拡大を行いました。

エチオピア

エチオピアでは、干ばつが繰り返し発生する地域で、水と農業の二分野でプロジェクト^{※4}を開始しました。水分野では、水資源の利用可能性地図や給水計画づくり、難民キャンプと周辺コミュニティへの給水整備を実施します。農業分野では、元牧畜民を対象とした灌漑整備を通じた農業生産性向上への支援、農牧民を対象とした畜産能力の向上と家畜市場の整備

支援、農民を対象とした天候保険(天候によって変動する農作物からの収入額を最低限確保するための保険制度)の導入などに取り組む予定です。これらのプロジェクトでは、中長期的な視点に立って、住民の生計向上や収入源の多様化など、住民の対応能力強化に向けた



ソマリ州ゴデデでの給水風景(エチオピア)

指針の提供を目指しています。

ソマリア

今回の干ばつで深刻な被害を受けているソマリアに対し、JICAは20年ぶりにケニアなどの隣国での第三国研修を実施し、保健や道路分野における行政官の能力向上を支援しました。

また、ソマリア暫定政府の首都モガディシュでは、干ばつの影響で国内避難民が多数押し寄せ、汚染された水を原因とする感染症が増加したため、JICAは国際移住機関を通じ、モガディシュ近郊の国内避難民居住地域で給水・衛生分野の調査を実施しました。JICAは、今後も、ソマリアのニーズを見極めつつ継続的に支援を行っていく予定です。

開発パートナーとの連携

今回の干ばつへの対応を通じ、国際社会では、政府間開発機構(IGAD)を調整機関として、「アフリカの角」地域全体として包括的な取り組みを行っていくことが合意されました。JICAは、IGADを中心とした支援の枠組みを尊重し、干ばつ対策に取り組む世界銀行や英国、米国の国際開発機関などと連携して、地域の対応能力強化に貢献していきます。

※1 「北部ケニア干ばつレジリエンス向上のための総合開発及び緊急支援計画策定プロジェクト」

※2 「半乾燥地持続的小規模灌漑開発管理プロジェクト」

※3 「ソマリア難民キャンプホストコミュニティの水・衛生改善プロジェクト」

※4 「農村地域における対応能力強化緊急開発計画策定プロジェクト」、「ジャラル溪谷及びシェベレ川流域水資源開発計画策定・緊急給水プロジェクト」



エチオピアのケベリバヤ難民キャンプ。水が十分に足りていない